

気候情報

2011年7月の日本の天候

- 上旬は北日本で、中旬は東日本で記録的に気温が高かった
- 台風第6号により記録的な大雨となった
- 「平成23年7月新潟・福島豪雨」が発生した

7月の天気概況

月のはじめは梅雨前線の影響により北日本から西日本にかけて曇りや雨の日が多く、北日本では南からの暖かい気流の影響で気温が平年を大きく上回った。上旬の北日本の平均気温は、統計を開始した1961年以降7月上旬としては最も高い値を更新した（平年との差： $+3.0^{\circ}\text{C}$ ）。上旬後半から月半ばにかけて太平洋高気圧が日本付近で強まり上空の偏西風も北に蛇行し暖かい空気に覆われやすくなったため、東日本を中心に所々で猛暑日となった。中旬の東日本の平均気温は7月中旬としては1961年以降最も高い値を更新した（平年との差： $+2.9^{\circ}\text{C}$ ）。四国、中国、近畿、東海地方では8日ごろ、九州北部、関東甲信、北陸地方では9日ごろ、東北南部、東北北部では11日ごろ、梅雨明けした（速報値）。

中旬後半は、日本付近での太平洋高気圧の勢力は弱まり、18日には台風第6号が四国の南を北上、20日には徳島県南部に上陸した後、潮岬付近を通過、その後本州の南海上を南東進した。東・西日本太平洋側を中心に大雨となり、四国や紀伊半島などの所々で総降水量が1,000 mm 前後となる記録的な大雨となった。

下旬は、上空の寒気や湿った気流の影響により、北海道を除いて雲が広がりやすく、所々でわか雨や雷雨となった。27～30日にかけては、新潟県と福島県会津を中心に大雨となった。前線が朝鮮半島から北陸地方を通過して関東の東に停滞し、前線に向かって非常に湿った気流が流れ込み、大気の状態が不安定となったため、4日間の総降水量が7月の平年の月降水量の2倍以上に相当する記録的な大雨となり、甚大な災害が発生した（「平成23年7月新潟・福島豪雨」）。

上旬：期間のはじめ、沖縄・奄美では日本の南の太平洋高気圧をまわる湿った気流の影響で雲が広がりやすく、所々でわか雨が降った。4日から6日にかけては梅雨前線や低気圧の影響で全国的に曇りや雨のところが多く、九州では大雨となった。7日からは太平洋高気圧が日本付近で強まった。東日本以西では晴れて気温が上がり所々で猛暑日となった。北日本では前線の影響で雲が広がりやすかったものの、南からの暖かい空気が流れ込み気温は平年を大幅に上回った。

中旬：東北地方から沖縄では、17日頃にかけて日本付近で強まった太平洋高気圧に覆われ晴れて気温が上

がり、所々で猛暑日となった。一方、北海道では前線の影響により曇りや雨の日が多かった。18～20日にかけては、台風第6号により東・西日本太平洋側を中心に大雨となり、四国や紀伊半島などの所々では総降水量が1,000 mm 前後となる記録的な大雨となった。

下旬：台風第6号は、期間のはじめは関東の南海上を南東進し、その後期間中頃にかけて三陸沖を北上した。北海道を除き、上空の気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、所々でわか雨や雷雨となった。27～30日にかけては、新潟県と福島県会津を中心に大雨となった。期間のはじめと終わりは、北日本太平洋側と関東甲信地方を中心にオホーツク海高気圧の影響を受けて、気温が平年を大きく下回った。

7月の気候統計

月平均気温：北日本から西日本にかけて高く、北・東日本では平年を 1°C 以上上回った。沖縄・奄美では平年並であった。

月降水量：北日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美で少なく、北日本日本海側、東日本では平年並であった。西日本太平洋側では多かった。

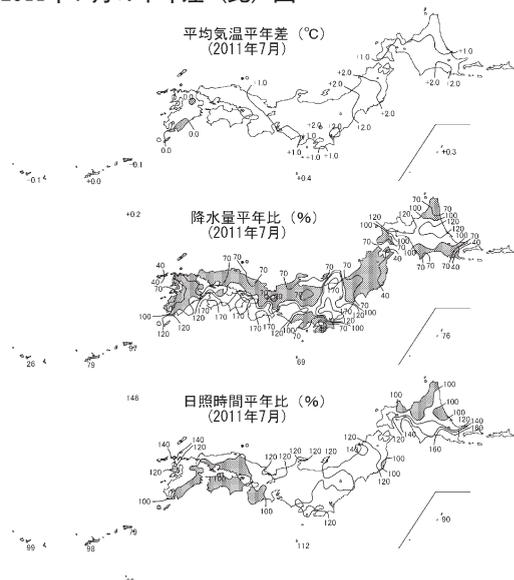
月間日照時間：北・東日本太平洋側、西日本日本海側で多かった。北・東日本日本海側、西日本太平洋側では平年並で、沖縄・奄美では少なかった。

（気象庁観測部統計室）

7月の記録（1位更新のみ）

なし（本欄の対象は月平均気温、月降水量、月間日照時間です）

2011年7月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。